



Vol. 53  
2023 WINTER

[繋ぐ]

SPECIAL INTERVIEW

# 有森裕子 × 田辺 円

オリンピック 女子マラソン2大会連続メダリスト

KPPグループホールディングス株式会社 代表取締役会長 兼 CEO

THEME

紙糸繊維「OJO+ (オージョ)」の魅力/  
国際舞台で活躍するためのヒントとは？

サステナブルな繊維として注目度UP





KPPグループホールディングスが発行するTSUNAGU  
(繋ぐ)は“紙の魅力再発見”をテーマに、  
紙と文化・紙と事業・紙と人を「繋ぐ」広報誌です。

### SPECIAL INTERVIEW ... P01

国際舞台で活躍するためのヒントとは？  
／「OJO+(オージョ)」の魅力Q&A

### 深める ..... P06

KPPグループホールディングス  
テレビ・ラジオCM放送のお知らせ

### 彩る ..... P07

「紙、香る」  
FRAGRANT PAPER ITEM

### PAPER TOPICS ..... P09

イベント用ワークショップキット  
「PAPER CAMP」／ほか

### 拓く ..... P11

Jリーグ ザスパクサツ群馬と  
リサイクルの仕組みづくり／ほか

### 伝える ..... P13

激動の人生を生き抜いた  
女流作家から届いた感謝の書状

### 訪ねる ..... P15

新たなコミュニケーションを生み出す  
注目のブックカフェにフォーカス

### 作る ..... 付録

格子状に組み上げる  
「スノーフレイクのオーナメント」





# 設計図に沿って日々の仕事に取り組みることが目標達成につながる。

五輪女子マラソンで2度メダリストに輝いた有森裕子さんと、KPPグループホールディングスの会長兼CEOの田辺 円によるスペシャル対談が実現。スポーツとビジネスというそれぞれの分野でリーダーシップを発揮してきた立場から、多国籍の人々と円滑に仕事をするためのコミュニケーション術、若いビジネスマンに向けたこれからの時代を生き抜くための提言などを伺いました。

——有森さんは、オリンピックでは1992年のバルセロナ大会で銀、1996年のアトランタ大会で銅と、2大会連続でメダルを獲得するなど日本女子マラソン界の先駆者として輝かしい結果を残されました。田辺会長は有森さんについてどのような印象をお持ちですか？

田辺：もちろんテレビで応援していましたし、限界を超えて走り続ける姿にとても感動しました。バルセロナでのメダル獲得は、日本女子陸上競技界における久しぶりの快挙でしたよね？

有森さん：64年ぶりでした。

田辺：でも、個人的にはアトランタの方が印象深いですね。国民の期待が大きかったし、「自分で自分をほめたい」というゴール直後の言葉には日本中が感動しました。実際に走ってみて、どちらの大会が苦しかったですか？

有森さん：アトランタはアップダウンが多いコースだったのでより難しかったです。バルセロナは、終盤にあるモンジュイックの丘まで4キロくらい急な登り坂が続くのできつかったですけど、高地トレーニングを積んできた成果が出せたと思います。

田辺：有森さんはリクルート社（陸上部）に所属されていましたが、当時地元岡山の天満屋さんからの勧誘はなかったんですか？

有森さん：天満屋さんに女子陸上競技部ができたのが1992年。私が（バルセロナで）メダルを獲得したことを受けて創設されたんです。田辺会長はスポーツにお詳しいんですね。何かスポーツをされていらんですか？

企業で働く若いビジネスマンに向けて、今後より大きな成果を上げるためのアドバイスがあればお願いします。

有森さん：一定期間すべてを競技に注ぎ込むマラソンと違って、仕事の場合は継続していくものですよ。それでも共通して大切なことは、自分の仕事にパッションを持って取り組めるかどうか。自分なりの思いや愛情を持って臨むことが大事なのかな。ただ与えられた業務をこなすだけでなく、つひつひの仕事に思いが込められているからこそ相手を引き付けるものになるのかなと思います。私たちがマラソンで使うモノでも、つくり手の思いがこもっていないものだと小さな綻びになって表れるんです。それに、私たちチームメイトが最後まで小出（義雄）監督に付いていくことができたのは、彼が誰よりもかけこが好きだったから。かけこが大好きで、その魅力について愛情を持って伝えようとしてくれたからこそ心から信頼できたし、安心して付いていくことができました。ジャンルは違いますが、思いや目標を持って「つひつひ」のことに取り組む姿勢は、同じように大切なことなんじゃないかと思っています。

田辺：たしかに我々の仕事とマラソンには共通点があります。マラソンは42.195キロを走るついであらかじめプランを考えると、上りや下りなどコースに合わせてラップタイムの組み方や、ライバルの出方に合わせた駆け引きなど、戦略や設計図をつくったうえでレースに臨むのではないのでしょうか。その設計図を描かずに走り出してしまつと、足がつかつたり、給水がうまくいかず「ゴールすることができなかつたりする。それは仕事でも同じことで、長期的な視点から目標を達成するまでの設計図を作成し、思いを持って今すべきことに取り組むことがとても大切だと思います。KPPホールディングスには全世界で約5400名が働いていますが、共通の設計図を見て、同じ価値観を持つことが重要だと考えています。

——KPPグループホールディングスは45か国、147都市に拠点を構えるグローバル企業として、今後さらに世界を舞台に活躍する人材が求められます。有森さんはこれまで、国連の親善大使やIOC

田辺：私は高校でラグビーに打ち込んでいました。花園（全国高等学校ラグビーフットボール大会）にも出場したんです。

有森さん：それはすごい！

田辺：余談ですが、2013年に高校ラグビーが近鉄花園ラグビー場で開催される50回目の記念として、50年前の決勝戦である「天理高校vs北見北斗高校」の試合が行われたんです。当時のメンバーを中心とするOBたちが出場したんですけど、私も1年かけて体をつくり直してプレーしたんです。テレビでも放送され、良い思い出になりました。

有森さん：年配の方がするスポーツでもマラソンとラグビーとは大きな違いがありますね。本当にすごいと思います。

——昨年10月、「サステナブルファッションEXPO」に国際紙バルブ商事と王子ファイバーが共同出展した際、有森さんには紙糸繊維「OJO+（オージョ）」を紹介するイベントにご出演いただきました。王子ファイバーの白石社長とは以前からお知り合いだったそうですね。



（国際オリンピック委員会の委員など、さまざまな国際機関で要職を務められてきましたが、言語、文化、価値観の違いを乗り越えてコミュニケーションを図るために、どのようなことを意識していますか？

有森さん：日本人では苦手な人が多いですが、海外では自己アピールができないと活躍が難しいと思います。自分の考えがきちんとあり、さらに表現することができないとチャンスの機会が減ってしまします。私が常に意識しているのは、相手の顔をしっかりと見て話すこと。そうすることでこちらの「伝えたい」という思いがしっかりと届き、相手にも「知りたい」という思いが生まれるんじゃないかと思っています。あとは、相手に「アグリー（同意）」を求めないことが重要です。価値観の異なる相手に同意を求めると、「そつじやない」と感じた瞬間に亀裂が生じてしまいます。だからこそ、「アグリー」ではなく「アンダースタンディング（理解）」したい相手だと思つてもらうことを意識するようにしています。相手には相手の思いや歴史があるというところを理解せず、一方的に押し付けるような態度で向き合つても、「コミュニ

有森さん：以前、「OJO+」の靴下をいただいたことが縁のきうか

けだったんですけど、履き心地が良いので時折使わせていただきました。マラソンだと、細かい縫製の部分の硬さなど微妙な調整が必要なのでまだ試したことはありませんが、ウォーキングなどで試した感じだと足に馴染む印象を受けました。それに兄が製紙業界で働いていることもあって「OJO+」を知っていて、実際に愛用していると話していました。

田辺：展示会では「OJO+」を使った製品を数多く出展しましたが、何か気になるものはありましたか？

有森さん：まず、紙からこんなにさまざまな製品をつくることができると驚きましたし、紙でできた衣服の着心地にとっても興味を持ちました。経年によって肌触りがどのように変化していくのかも非常に気になりますね。

田辺：「OJO+」の人工芝はいかがでしたか？

有森さん：本当にびっくりしました。スポーツの現場では人工芝のフィールドを使う機会が多いんですけど、とにかく暑いんですよ。子どもたち向けのプログラムで、人工芝のうえを裸足で歩いたり休ませたりしたいんですけど、暑すぎてどうにも無理なんです。その点「OJO+」の人工芝は熱がこもりにくいので安心だし、紙ならではの丸みを帯びた柔らかさがあるので、安心して子どもたちに使ってもらえる。とても画期的な製品だと思います。

田辺：イベントだけでなく、私たちのブースにも結構長くいらつしやつたと聞きました。来場者もかなり多かったんで、大変ではなかったですか？

有森さん：いえいえ、私自身が楽しくてはしゃいでいました（笑）。「OJO+」のジャケットや靴もかわいかったし、ジーンズもとても紙とは思えないクオリティに驚かされました。

田辺：興味を持っていただけたようで、うれしく思います。

——有森さんは中学から陸上競技を始め、ひたむきな努力によって数々の栄光を獲得されました。KPPグループをはじめ、さまざまな

ケースは深まりません。自分の意見を無理に通そうとするのではなく、「伝えたい」という姿勢が大事なんじゃないかと思っています。

田辺：有森さんの言う通り、自分で考えて行動する「マネジメント力」がないと、国際舞台での活躍は難しくなりますね。それに今、環境汚染が大きな社会問題になっていますが、私は若い人の「デジタル汚染」も懸念しています。デジタル技術の発達によってボタンひとつで簡単に答えを導けるようになりましたが、私は結論にいたるまでのプロセスやアプローチも非常に大事だと思っています。そのためにも若い人たちには是非、無駄なことをたくさん経験してほしいですね。その中で自分の得意分野を発見し磨いていくことが、この部分は負けなという自信になるはずですから。

——貴重なアドバイスをありがとうございます。最後に、有森さんの今後の抱負をお聞かせください。

有森さん：スポーツは人の心を大きく動かすもの。だからこそいろいろなことにコミットすることで、社会全体を動かす要素になりうるものだと思います。これからもスポーツを通して、社会全体の役に立てる活動を続けていくつもりです。「OJO+」をきっかけに今回ご縁をいただいた、KPPグループホールディングスさんの展開にも注目していきたいと思っています。

## 有森 裕子さん

岡山県岡山市出身。日本体育大学を卒業後、(株)リクルート入社。1992年バルセロナ五輪で銀メダルを獲得し日本の女子マラソンランナーとして初めてのメダリストとなる。1996年アトランタ五輪でも銅メダルを獲得。レース後に語った「初めて自分で自分をほめたいと思います」という言葉は、その年の流行語大賞に選ばれた。1988年NPO法人ハート・オブ・ゴールド設立、代表理事就任。2007年にプロマラソンランナー引退。現在は、国際オリンピック委員会(IOC)スポーツと活動的社会的委員会委員、スペシャルオリックス日本理事長、日本陸上競技連盟副会長、大学スポーツ協会(UNIVAS)副会長などの要職を務める。2010年IOC女性スポーツ賞を日本人として初めて受賞。

国際舞台では、「アグリー」ではなく「アンダースタンディング」が重要。



▶ テレビとラジオにて、当社グループのCMを放送しています

ホールディングス体制への移行に伴い、前号の本コーナーでは当社グループ会長兼CEOの田辺から読者のみなさまへのご挨拶を掲載しました。今号では、当社グループをより多くの方々に知っていただくため昨年10月より放送を開始しているテレビCMとラジオCMについてお伝えします。

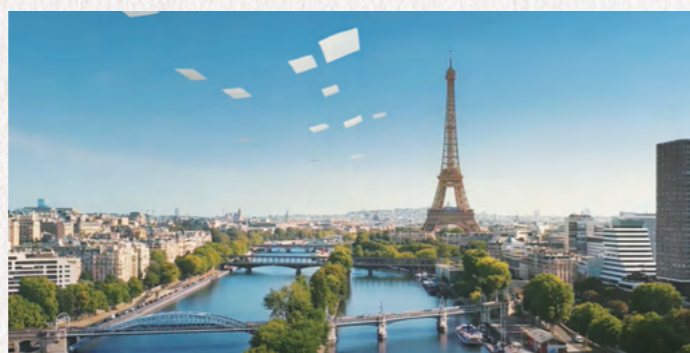
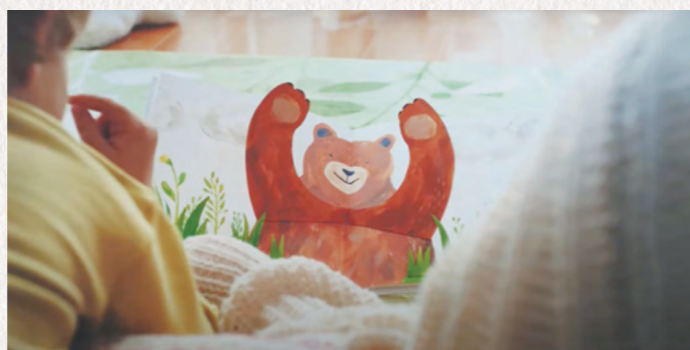
CMでは、当社が世界45か国、147都市に157拠点を構える総合循環型グローバル企業として始動することや、紙という素材がこれからは私たちの暮らしのなかで、さまざまにカタチを変えて社会とつながっていくことを「紙でつなぐ、未来をつくる」というキーメッセージを軸に広く発信しています。



**YouTube**

テレビCMは  
当社グループ公式YouTubeでも  
ご視聴いただけます

<https://youtu.be/ti5Yj3AMMgo>



■ テレビCM

放送局：テレビ東京、テレビ大阪、テレビせとうち、テレビ北海道、テレビ愛知、TVQ九州放送、BSテレビ東京  
番組名：NEWSモーニングサテライト  
放送期間：2022年10月3日(月)～2023年3月24日(金)  
放送時間：毎週月～金曜日 午前5:45～7:05  
<https://www.tv-tokyo.co.jp/nms/>

■ ラジオCM

放送局：TBSラジオ(関東1都6県)  
番組名：森本毅郎・スタンバイ!  
放送期間：2022年10月3日(月)～2023年3月31日(金)  
放送時間：毎週月～金曜日 午前6:30～8:30  
<https://www.tbsradio.jp/stand-by/>

有森裕子さんも  
注目の素材!

Natural Filament Fiber  
**OJO+**

もっとおしえて!  
オージョのこと

Q&A



「OJO+」の特長

- ・軽量で丈夫
- ・ハリとコシがあり、さらっとした肌触り
- ・繊維と染料の相性が良く染色性が高い
- ・毛羽立ちが少ない
- ・通気性が高く速乾性がある
- ・天然の消臭性と抗菌作用
- ・保温・吸湿性が高い
- ・紫外線カット
- ・水に極めて強く、洗濯可能

紙からつくられる「OJO+」は、ほかの繊維と比べて何が優れているんですか？

「OJO+」は、強度の高いマニラ麻を原料に抄いた紙を細く裁断し、撚りをかけて糸にしたものです。なめらかな長繊維のため従来の麻よりも毛羽立ちが少なく、耐水性があり繰り返し水洗いも可能。また、空気を多く含む多孔質のため驚くほど軽く、吸水性・速乾性も兼ね備えているので、さらっとした爽やかな肌触りに仕上がります。

「OJO+」はどのような製品に使われていますか？

綿やポリエステルといった他繊維との交織性に優れているため、幅広い用途、製品に活用されています。アパレルでは、爽やかな触感と冷感のある夏物衣料、保湿性のある冬物衣料などに「OJO+」を使用するブランドが拡大しており、ジャケットやデニム、セーターをはじめ、シューズや靴下、帽子やバッグなどにも採用されています。また、コシの強い丈夫な繊維であることからインテリア家具の布地やラグに、吸湿性・吸汗性・通気性・撥水性に優れていることから、他繊維を混紡したタオルやシーツなどのベッドリネンにも活用されています。近年では、海洋プラスチックの原因である樹脂製人工芝を紙に変えるべく全力で取り組んでいます。



「OJO+」がサステナブルな素材として注目されている理由を教えてください。

「OJO+」の原料となるマニラ麻はフィリピンやエクアドルなどに生息する多年草で、苗からおよそ3年で高さ5～6m、直径40cmまで成長します。生育が早く、二酸化炭素の吸収にも優れており、焼却しても有害物質が発生せずに自然環境下で生分解されることから、地球環境への負荷軽減に貢献するエコ素材として国内外から期待を集めています。



皮膚への影響など安全性に問題はありますか？

「OJO+」は、世界トップレベルの安全な繊維の証として、厳格な基準を誇る2種類の世界的認証を取得しています。繊維製品に対する安全基準「エコテックス」では、赤ちゃんの口に触れても安全という最も厳しい「クラス1」を取得。有機栽培農産物や有機加工品であることを証明する「GOTS」では、化学肥料や農薬不使用の原料としてオーガニック認証を取得しています。なお、当社ではオーガニック認証取得可能なエクアドル産マニラ麻を採用しています。

「OJO+」に関する質問・お問合せ

王子ファイバー株式会社

所在地：東京都中央区銀座5-12-8  
王子ホールディングス1号館 7F  
TEL：03-5550-3003  
FAX：03-5550-0621

QRコードをチェック! ▶▶▶

<https://www.ojifiber.co.jp/>





インテリアとしても楽しめる  
葉っぱをモチーフにしたお香

## 「HA KO」

発売元:株式会社薫寿堂  
<https://hakopaper.official.ec/>

繊細なフォルムから葉脈まで、本物のように再現された葉っぱをモチーフにしたスタイリッシュなデザイン。「HA KO」は、日々職人の手によって1枚ずついねいに生み出されている和紙のお香です。開封して部屋に置くだけでもやさしい香りが3か月ほど楽しめるほか、手紙に添えれば心遣いを効果的に表現するアイテムに。また、火をつけて煙をくゆらせれば葉の形状により5〜7分間燃焼し、心を落ち着かせる奥ゆかしい芳香が空間全体に行き渡ります。ナチュラルなインテリアとして、部屋を和モダンな雰囲気演出するのにもぴったりのお香です。

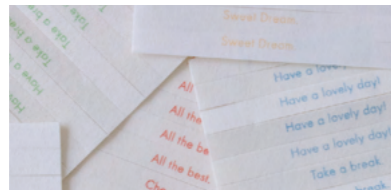


▼「Winter HA KO Cedar 糸杉」 ▲「Winter Sweet Ginger 生姜」  
▲「Winter Fir Tree もみの木」 ▲「Autumn Sudachi すだち」 ▲「Autumn Fennel 茴香」  
▲「Autumn Osmathus 金木犀」  
香りは、白色8種+黒色3種の計11種。その他、春夏/秋冬で入れ替わる季節商品6種があります。

1枚ずつ切り離して使う  
シートタイプの和紙のお香

## 「WASHI INCENSE」

発売元:株式会社薫寿堂  
<https://kunjudo.shop-pro.jp/>



香りを楽しみたい時にはもちろん、普段の生活に取り入れることでさまざまな効果を得られるお香。一方で、香炉を用意したり、灰の後始末が面倒というイメージを持たれている方もいらっしゃるのではないのでしょうか。そんな方には和紙のお香「WASHI INCENSE」がおすすめ。紙でできたシートタイプなので灰が飛び散ることもなく、お香を取り付ける付属のクリップに挟んで立てるだけなので、準備や後片付けも簡単。お香の先端に火をつけると約5分間煙を緩やかにくゆらせながら、やさしい香りが空間全体に行きわたります。香りは、創業130年を迎えた淡路島の老舗・薫寿堂が独自の製法で調合した全5種類。日々の暮らしを彩る室内香として、その日の気分に合わせて好きな香りを楽しんでみてください。●「#1」～「#5」の全5種類。各30枚入り。

04

FRAGRANT PAPER ITEM

## 紙、香る

手軽で使いやすく、燃焼させやすい「紙」を使った「フレグランスアイテム」を厳選しました。良い香りを嗅ぐだけで気持ちが落ち着いたり、やる気が起きたりと気分転換するのにぴったり。ぜひ、日々の暮らしに取り入れてみてください。



使うたびにゆずの香りがはじける  
土佐和紙製のあぶらとり紙

02

## 「土佐和紙YUZUあぶらとり紙」

発売元:株式会社エコロジー四万十  
<https://www.eco40010.com/>

余分な皮脂による顔のテカりをしっかり抑えて、フェイスパウダーやファンデーションのノリをよくするあぶらとり紙は、きれいなメイクを長く維持したい女性の必須アイテム。仕事や家事に日々忙しい方におすすめしたいのが、この「YUZUあぶらとり紙」です。和の風合いと柔らかさのある土佐和紙に、高知県の特産・ゆずの香りがマイクロカプセル製法によって内包されており、軽く擦り合わせると柑橘系の爽やかな芳香がほのかに香るので使うたびに気分がすっきり。肌触りがマイルドなので肌の負担が気になる人も安心して使えます。汗っかきな人やオイリー肌男性にもおすすめです。使うたびに気持ちがあがる、ちょっと贅沢なあぶらとり紙はいかがでしょう? ●30枚入り。



旅行先でのリラックス時に使いたい  
携帯に便利なペーパーインセンス

01

## 「GRASSE TOKYO ペーパーインセンス」

発売元:GRASSE TOKYO株式会社  
<https://grassetokyo.ocnk.net/>

旅先で泊まったホテルの客室に入ると、禁煙室なのにタバコの臭いがしたり、前の宿泊者の香水やカビ臭さを感じたり。そんなときのために備えておきたいのが、GRASSE TOKYOのペーパーインセンス。燃え殻の受け皿にもなる缶ケースには、ペーパーインセンス(紙のお香)と取り付けるためのホルダー、マッチがコンパクトに収納されているので携帯するのに最適。ムエット(試香紙)をモチーフにした一片を切り取って燃やすだけで、スマイル、ローズの華やかさを表現したブラックカラント(カシス)の香りが濃い、気になる臭いをやさしく浄化してくれます。香りの強い料理をつくったあとの消臭や、トイレや玄関など臭いがこもりやすい場所にもおすすめです。●15枚入り。

お香の老舗が手がける  
ワンランク上の一筆箋

## 「薫り箋」

発売元:株式会社負野薫玉堂  
<https://shop.kungyokudo.co.jp/>



05

手間をかけてしたためた直筆の手紙は、メールやSNSのメッセージよりもずっと雄弁に思いを伝えてくれるもの。相手を思う気持ちをより深く伝えたい時におすすめしたいのが、この「薫り箋」です。創業430年近くの歴史を持つお香の老舗・薫玉堂が手がけた一筆箋は、代々伝わる調香帳を基に調香した上品な香りが施され、開封した瞬間に心地よい香りがほのかに立ち上がります。また、風情な季節の花のイラストも言葉に彩りを添えるポイントに。心遣いととも手紙を開けた時にふわっと香りが舞う、心が安らぐ一瞬を届けてみませんか? ●桐箱入り。「桜」「藤」「朝顔」「睡蓮」「秋桜」「椿」の6種類。各100枚入り。

03



「堺町101」

「銀杏」

洗練された大人の嗜みを感じさせる  
淡い移り香を楽しむアイテム

ふみこう  
「文香」  
発売元:株式会社負野薫玉堂  
<https://shop.kungyokudo.co.jp/>

「文香」とは、古くから日本で親しまれてきた手紙の文化のひとつで、和紙にお香を詰めた小さな小袋のこと。手紙や贈り物にしのばせれば、封筒やラッピングを開封した瞬間にやさしく香りが立ち上り、送り手の思いや心遣いを感じさせる、日本人ならではの奥ゆかしさを表現するアイテムです。贈り物に添えるだけでなく、自身の手帳や本のしおりとして挟んでおけば、ページをめくるたびにほのかな移り香を楽しむことも。名刺入れに入れておけば、心地よい香りが相手への印象付けにもつながります。京都の文化や季節を感じさせるデザインや外装のたとう紙(着物を収納する専用の包み紙)など、大人の嗜みと美意識を感じさせる逸品です。●「堺町101」「桜」「朝顔」「銀杏」の4種類。各3枚入り。



02

ブランディングをサポートするパッケージ専門のショールーム

HAKO& (ハコアンド)



さまざまな形状や色とりどりのパッケージが整然と並び開放感のある店内。2022年9月、福井県福井市にオープンした「HAKO&(ハコアンド)」は、実際にサンプルを手に取りながら理想のパッケージづくりを進めることのできる、今話題のショールームです。「私たちの役割は、パッケージを通してお客さまが販売する商品の価値を高めるお手伝いをすることです」。そう話すのは、同店の母体である紙卸商、株式会社ダイゲンコーポレーションの大谷佳史社長。その言葉どおり、単にサイズに合う包装容器を売るのはなく、まずはパッケージする商品の魅力や特徴、販売する場所やターゲットについてのヒアリングを実施。商品の価値を高め、ブランド力アップにつながるデザインや形状、使用する素材も含めて、最適なパッケージを提案しています。「当店の特徴は、企画・デザインから製造・納品までワンストップでできること。経験豊富な専門スタッフと専属デザイナー、生産設

備機器が整っているのも、最短1時間でサンプルをつくり、その場ですぐに確認していただくことも可能です」(大谷社長)。  
同店にはオープン以来、新商品の販売を予定している企業担当者から個人で活動するクラフト作家の方まで幅広い方が来店しています。「なかでも店舗やブランドを新たに立ち上げるスタートアップのお客さまが多いですね。そんなお客さまには、初めから立派なものを大量生産するのではなく、まずは少ロットで売れ行きを確認したうえで本格的な生産に移行することをおすすめしています。お客さまと一緒に考えながら、小さい商売から大きな商売に育てるお手伝いできればと思っています」。紙を知り尽くした紙卸商ならではのアイデアと紙加工技術、表現豊かなデザイン力によって、消費者との懸け橋となるパッケージに新たな付加価値を生み出す「HAKO&」。こだわりのパッケージを探している方におすすめです。

株式会社ダイゲンコーポレーション  
株式会社ペーパージャック

大谷 佳史 社長



北陸新幹線の延伸(2024年春)や中部縦貫自動車道の全線開通(2026年春)など、福井は交通インフラの整備が完了しつつあります。ヒトやモノの交流が拡大するチャンスなので、新商品やリニューアルを予定しているお客さまとともに、パッケージを通して地域の魅力発信に貢献したいと思っています。

HAKO& (ハコアンド)

住所：福井県福井市問屋町1-2  
営業時間：10:00~17:00  
定休日：土・日・祝日

<https://hako-and.com/>



01

クラフトの楽しさを堪能できる紙製ワークショップキット

PAPER CAMP (ペーパーキャンプ)

PAPER CAMP

**ペーパーぶたさん**  
昔懐かしいぶたの姿の蚊取り線香がモチーフ。付属の吸水紙に嫌虫効果のあるオイルを染み込ませれば虫よけ効果もあります。うさぎの耳の付いた「ぶたうさちゃん」、ライオンのたてがみの付いた「ぶたらいおんくん」も発売中。

持ち運びに便利なバッグ付き

**ペーパーコンテナバッグ**  
カセットガス缶2本がぴったりと収まる紙箱。カラーバリエーションは、ブラック&グレー、グリーン&ベージュの2種類。

**ペーパーランタン**  
置いて吊るしても使える紙製ランタン。付属のLED豆電球をつければ、柔らかい光が辺りを照らしてくれます。

**ペーパーライトボックス**  
小さな穴からこぼれる灯りによって絵柄を描くライトボックス。付属のLED豆電球とボタン電池を使った電気回路の学習にも最適です。

近年、さまざまなシーンで広く活用されるようになった「ワークショップ」。主催者が一方的に話すセミナーとは異なり、参加者が主体となって能動的に取り組む体験型の「ワークショップ」は、社内研修やプロモーションイベントをはじめ、子どもと大人と一緒に楽しめる工作ワークショップ、学校でのグループ学習など、さまざまな目的で活用されています。  
「PAPER CAMP」は、新潟県三条市に本社を置くプログラフィ株式会社が開発した紙製ワークショップキット。視覚表現にこだわる印刷会社としてオリジナルグッズの開発にも取り組む同社は、その発想力やデザイン力、これまで自社でワークショップを開催してきた経験に基づき、主催者の使いやすさと参加者の満足度にこだわった商品に仕上げました。一般的なワークショップの場合、企画内容を考える手間や道具の準備などに苦勞するケースが多いことを受

け、この「PAPER CAMP」は一人分の材料をワンセットにした個包装になっています。最小限のスタッフで運営できるように説明書(英文あり)のほかにつくり方の動画を用意するなど、ワークショップをストレスなくスムーズに楽しんでもらうための工夫が凝らされています。  
蚊取り線香やランタンなど「キャンプ」をモチーフに選んだ理由を聞くと、「ワークショップは、体験や行動に価値をおいた「コト消費」です。手や指先を使って紙パーツを組み立てる作業は、テントの組み立てや薪割りなどを体験するキャンプとの親和性が高く、親子で一緒に楽しみを共有できるツールとしてこのPAPER CAMPを開発しました」(同社・佐藤雄基さん)。  
また同社では、中学生を対象としたワークショップをオンラインで実施。コロナ禍で校外学習の機会が減った子どもたちに、「PAPER CAMP」の組み立てを通して紙と印刷の面白さを伝える機会

を提供しました。クラフトの楽しさとともに新たな交流を生み出せる最適な紙製ワークショップキット。気になる方はぜひ一度ご検討を。

プログラフィ株式会社

住所：新潟県三条市北入蔵1-9-20  
TEL：0256-38-5735  
FAX：0256-38-3860



<https://prograf.co.jp/>

■ オンラインショップ

<https://frel.stores.jp/>





topics  
**02** 釣り糸の保管具の素材に、  
当社提案のバイオマス素材が採用されました

このたび、グローブライド株式会社の販売する釣り糸スプールの素材に、当社が提案した「NEQAS OCEAN(以下ネクアスオーシャン)」が採用されました。ネクアスオーシャンは、酢酸セルロースをベースとした海洋生分解性樹脂で、高い透明性と優れた耐久性を有する、人と環境に優しい素材です。土壌分解に加えて海洋生分解性を有するなどの特徴があり、日本バイオプラスチック協会(JBPA)よりバイオマスプラスチックおよび生分解性プラスチックの認証を受けています。

株式会社ネクアスのネクアスオーシャンを使用した釣り糸スプール「フロロハリス X'LINK」は、2022年10月末より店頭にて販売中です。



スプール「フロロハリス X'LINK」



※写真はイメージです

「フロロハリス X'LINK」の  
製造・販売

グローブライド株式会社  
https://www.globeride.co.jp/



生分解性樹脂「ネクアスオーシャン」の  
製造・販売

株式会社ネクアス  
https://neqas.co.jp/



環境負荷軽減に向けた「Green KPP」

海洋プラスチック汚染問題への関心が高まるなか、当社は2018年に「Green Biz Project」を社内横断的に立ち上げ、「紙化」「減プラ」「バイオプラスチック」などの観点から、代替素材や製品の開発・流通に取り組んでいます。今後も生分解性プラスチックなど環境に配慮した素材の提案を通じて、環境負荷軽減に貢献していきます。



■本件に関する問合せ

国際紙パルプ商事株式会社  
出版・直需営業本部直需部  
直需第1課

TEL : 03-3542-9908 (受付:月~金/9:00~17:00)  
MAIL : kpp\_DirectSalesSec1@kpp-gr.com



◀メールでの  
お問い合わせは  
こちらから

持続可能な社会実現に向けた、KPPグループのあくなき挑戦をご紹介

KPP Sustainable Times

限りある資源やエネルギーを循環・再生させることは、現代社会において極めて重要な課題となっています。当社グループは経営理念である「循環型社会の実現」に基づき、事業を通してサステナブルな社会づくりに貢献し、企業価値の向上を図っています。

topics  
**01** Jリーグ「ザスパクサツ群馬」と新規クラブパートナー契約を締結し、  
新たなリサイクルの仕組みづくりへの挑戦をスタート

国際紙パルプ商事株式会社は、株式会社ザスパ(本社:群馬県前橋市)が運営するサッカークラブ、ザスパクサツ群馬とクラブパートナー(ネイビーパートナー)契約を新たに締結しました。ザスパクサツ群馬ではごみ削減や資源再利用を推進しており、プロスポーツチームが持つ発信力を活かし、ホームゲームにご来場いただく観客や地域社会に対してSDGsの認知を広め、社会課題の解決に尽力しています。

当社はこのような取り組みに賛同し、同クラブと協働で試合後の会場にて使用済み紙コップの回収と再資源化を実施。従来、使用済み紙コップは一般廃棄物として焼却処理されていましたが、スタジアム場内4カ所に紙コップ専用回収機を設置し、回収した紙コップをトイレトペーパーの原料として再利用します。この取り組みを通して新たなリサイクルの仕組みづくりに挑戦するとともに、資源再活用の重要性を周知する活動を推進していきます。



ザスパ主催「ザスパビジネスセミナー」に当社社員が登壇

「ザスパビジネスセミナー」とは、群馬県にゆかりのある各社社長や各業界で注目されている方々をゲストに迎え、そのノウハウやナレッジを共有するセミナーです。2022年11月28日に行われた同セミナーに当社直需営業部長の前田靖人がゲストとして登壇しました。約60分のプログラム冒頭に株式会社ザスパの石井社長よりザスパクサツ群馬のごみ減量や環境への取り組みについてのご紹介がありました。これを受けて、前田が国際紙パルプ商事の総合循環型ビジネスモデルや、ザスパクサツ群馬ホームゲームでの紙コップ回収の取り組みなどについてプレゼンテーションを行いました。スポーツクラブにおけるこれからの環境保全への取り組みとその効果について共に考えるきっかけとなりました。

DATA

テーマ スタジアムから始まるリサイクル  
~環境と経済への波及効果~  
日時 2022年11月28日(月)  
場所 群馬県庁32階NETSUGEN



セミナーの様子は  
PC・モバイル端末  
でもご覧いただけます



右から株式会社ザスパ 代表取締役社長 石井宏司氏、直需部長前田靖人、武田幸市

■本件に関する問合せ

国際紙パルプ商事株式会社  
出版・直需営業本部直需部  
直需第3課

TEL : 03-3542-4119 (受付:月~金/9:00~17:00)  
MAIL : kpp\_DirectSalesSec3@kpp-gr.com



◀メールでの  
お問い合わせは  
こちらから



# 「手紙」は語る

植村 頼音

人間は表現する動物だというのが、手紙は人間の表現のなかでもっとも深く高貴なものだと思う。手紙は手書きがいい。眼光紙背に徹すれば、書き手の人となりが見えてくる。

## 第三十一回 佐多 稲子

わたしが映画会社からテレビ局に転職したのは昭和三十九年だが、番組表を作る「編成」というセクションから番組を制作する「演出」というセクションに配転になったのは、四年後の昭和四十三年のことである。自由で居心地のよかつた編成から労働の過密な演出への異動は不本意で、しばらくは制作現場から距離をおき構成台本を執筆したりしながらお茶を濁す日々を送ったが、そうばかりもしていられず、翌年の年明け早々には上司の命令で番組制作のお鉢がまわってきた。各界の功成り名をとげた人の半生を紹介する「人に歴史あり」という番組のディレクターに組み入れられ、佐多稲子さんを担当することになったのである。なぜ佐多さんを担当することになったかといえ、わたしの伯父が直木三十五という文士で、わたしにどこか文学に縁がありそうなイメージがあつたからなのだろう。

佐多さんは当時女流作家の第一人者だつた。佐多さんを担当することになって、人好きのわたしはたちまち彼女の魅力のとりこになった。なんといっても、彼女の人生遍歴が並みはずれている。明治三十七年長崎生まれ。父親が十八歳、母親が十五歳。二人とも十代の学生結婚だつたが、母親が稲子七歳のとき早逝したため一家で上京、彼女は五年生で小学校を中退し、キャラメル工場、浅草の中華そば屋など職を転々とする。そば屋では包丁の刃幅よりも小さな手でジャガイモの皮が剥けなくて馬上で胸をつまらせたという。番組の収録を終えたあと、関係者一同、六本木の中華料理店で佐多さんのご馳走になった。佐多さんは苦勞人で配慮の人だつた。招かれた人の中には、もとご主人の窪川鶴次郎さんの顔もあつた。

小島政二郎、「丸善」時代の櫻井喜代志、「紅緑」時代の中野重治、窪川鶴次郎、原泉、壺井繁治さんの面々である。類は友を呼ぶというが、彼女のお仲間はみんな立場を越えて善意の人たちだつた。とりわけ、壺井繁治さん、小島政二郎さんとわたしとの手紙のやりとりは、その後も長く続いた。佐多さんのお宅にはその後もときどき伺つたが、手紙は、年賀状以外に葉書が一枚あるだけだ。

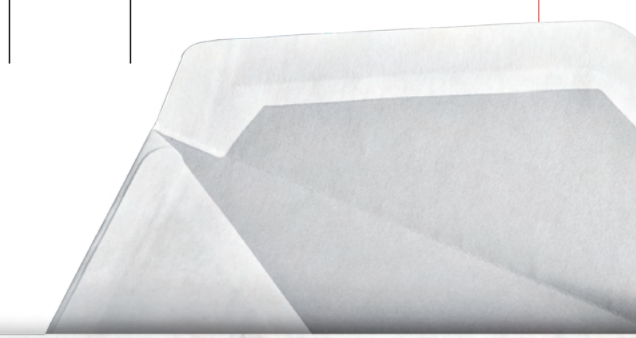
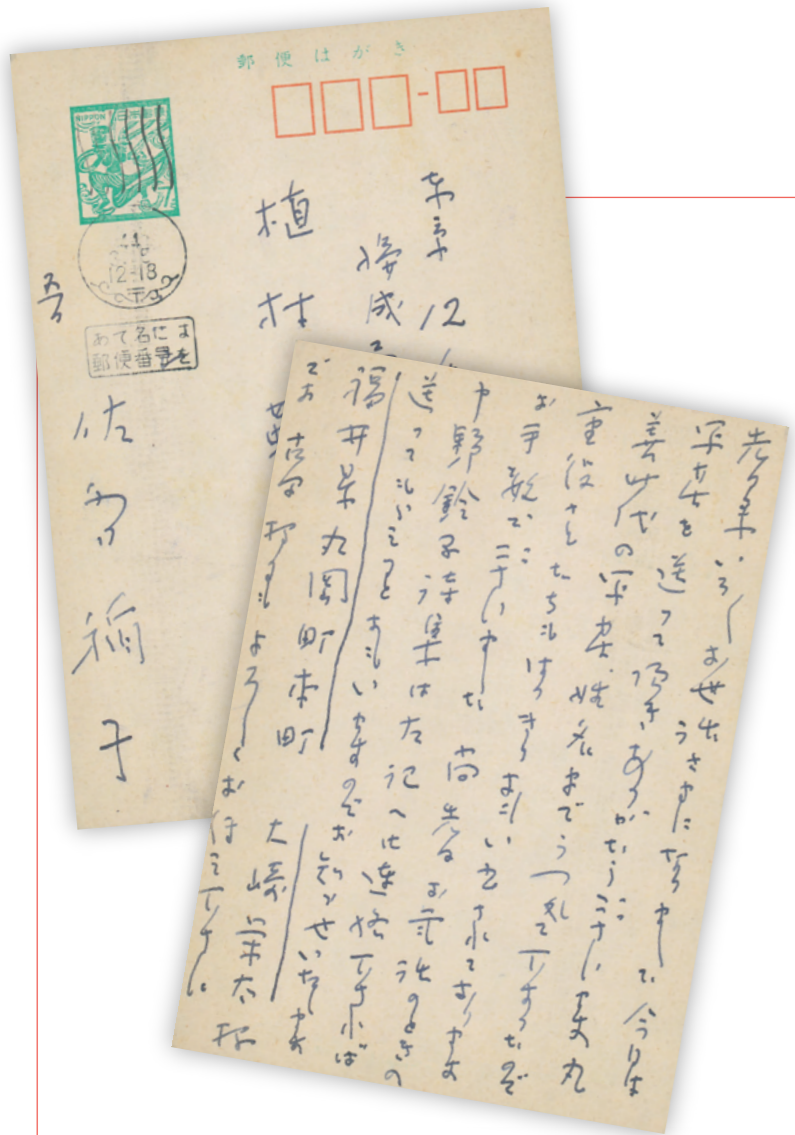


写真: Kodansha/アフロ

## 佐多 稲子

小説家  
1904-1998

1904年、長崎市生まれ。1928年、自らの女工時代の体験をもとにした処女作『キャラメル工場から』で文壇デビュー。以来、戦前はプロレタリア作家として活躍した。戦後も数々の名作を相次いで発表する一方、婦人民主クラブを創立し、終生にわたって女性の地位向上や平和運動に力を尽くす。1986年に随筆集『月の宴』で第37回読売文学賞を受賞。そのほか、『女の宿』(1963年)で女流文学賞、『時に佇(た)つ』(1976年)で第3回川端康成文学賞などを受賞。1998年、敗血症のため死去。享年94歳。

かつたという。美人で努力家で賢くて読書好き。上野・池之端の料亭「清凌亭」で座敷女中をしていた頃、客として来店した芥川龍之介、菊池寛、久米正雄などの文士の知己を得、丸善にも勤務したことがある。二十歳の頃、働くことに疲れ、上役の紹介で資産家の息子と結婚し一児を設けるが、夫の実家の反対にあい二人で自殺を図るも未遂に終わり、その後離婚を経験する。離婚後彼女は本郷のカフェー「紅緑」の女給を勤め、そこをたまり場にしてきた雑誌「驢馬」の同人、室生犀星、堀辰雄、中野重治、二人目の夫となる窪川鶴次郎などと親交を結ぶ。考えてみると、彼女を文学の世界に引きこんだのは、持っていた生きた素質もあるだろうが、「清凌亭」と「紅緑」での芥川や中野との邂逅があつたことは疑いがない。中野重治は、「佐多稲子の中に女を見出したのは窪川、作家を発見したのは俺」と番組の中で語っている。中野や壺井などからの感化があつたのだろう、昭和七年に当時日本では非合法だつた日本共産党に入党するが、日中戦争が始まり戦場への慰問や時流に妥協した作品も執筆せざるを得なくなる。わたしが番組を通して佐多さんを知つたのは、数えてみると彼女が六十四歳のときのことだが、彼女がそんなことを理由に共産党を除名されたのはその五年ほど前のことだ。わたしは、番組の終盤、問

「(前略)今日は写真を送つて頂きありがとうございます。丸善時代の写真姓名までうつつてくださったので重役やともだちもはつきりおもしろい出されております。お手数でございました。尚先日お電話のときの中野鈴子詩集は連絡下されば送つてもらえるとおもいますのでお知らせいたします。福井県丸岡町本町大崎栄太様(後略)」

写真というのは、番組収録時のスナップショットである。前にこのコラムで触れたことがあるが、わたしは安いギャランティの免罪の意味で出演者にスタジオでのスナップショットを送ることを励行していたが、たぶんそのことだろう。中野鈴子は重治の実妹。兄と同じ福井県坂井市の出身で詩人だつた。佐多さんから彼女に「花もわたしを知らない。中野鈴子詩集」という素朴な詩集があることを聞いてそのことを問い合わせたのだろう。佐多さんの知人の大崎栄太という人が出版社を紹介してくれ、わたしは無事この詩集を手に入れた。大崎さんとの文通も長い間続いたが、彼も先年亡くなった。

わたしが最初に制作した番組は新聞や雑誌でとりあげられ評判は悪くなかつた。わずか二年ほどの間ではあつたが、わたしは番組制作のよこびを満喫した。番組の終わりに司会の八木治郎が訊いた。「ご自分の歩いてきた道をどう思われますか」。佐多さんが応える。「他人がなんというが、私は自分の生きてきた人生が好き。その時々で最善の途を選んできたつもり」。他人の評価には耳を貸さない。人生は自分のものだ。それでいいのだとつくづく思う。



著者略歴  
植村 頼音 エッセイスト  
小説家・直木三十五の甥、東洋史学者・植村清二の子として愛媛県松山市に生まれる。1962年早稲田大学第一文学部史学科卒業後、東映を経てテレビ東京に勤務。同局常務取締役(株)テレビ東京制作代表取締役社長等を歴任。2005年『直木三十五伝』で尾崎秀樹記念・大衆文学研究賞受賞、2007年『歴史の教師植村清二』で日本エッセイスト・クラブ賞受賞。主な著書に『夏の碑』『気骨の人 城山三郎』など。

※中支…中国の揚子江と黄河に挟まれた地域。現在の華中にあたる。





## ESPACE BIBLIO (エスパス ビブリオ)

東京都千代田区神田駿河台1-7-10

YK駿河台ビル B1F

TEL: 03-6821-5703

営業時間: 11:30~22:00

※ランチタイムは11:30~14:00

日・月曜・祝日定休

<http://espacebiblio.superstudio.co.jp/>



(右下)主宰の齋藤さんは写真家としても活躍。歌舞伎役者・四代目市川猿之助さんの全舞台写真を約15年間にわたって撮影し続け、写真集の発行のほか、店内にあるギャラリーで展覧会を開催している。

## マルチクリエイターのライブラリーを自由に閲覧できる知的空間

東京・御茶ノ水駅から徒歩数分。高低差の激しい神田駿河台と猿楽町をつなぐ一直線の急階段「男坂」の脇に、ブックカフェ「ESPACE BIBLIO」があります。崖上にある「とちの木通り」から階段を降り店内に入ると、そこはアンティーク家具と心地よいジャズ、深いコーヒーの香りに包まれる、都心とは思えないゆったりとした空間があります。壁面にはアートや写真、ファッションをはじめ、料理や映画、建築など芸術とカルチャーに関する約6,000冊の専門書が並んでいます。「ここにある本は、うちのデザイン事務所が資料として収集したものなんです」。そう話すのは、1975年にデザイン事務所を立ち上げ、グラフィックデザイナーやアートディレクターとして数多くの広告やキャンペーン等を手掛ける齋藤芳弘(さとうよしひろ)さん。クリエイティブワークと並行して2013年にESPACE BIBLIOを主宰し、今では手に入らない絶版本を含む国内外の貴重な書籍を来店客に公開しています。

この「ESPACE BIBLIO」に来店するのは、周辺で働くサラリーマンやOLが大半。昼時にはボリュームのあるワンプレートランチやバスコ地方のチーズケーキが目当ての客で満席になる盛況ぶりです。「隣接する明治大学をはじめ、周辺には大学やアートスクールがたくさんありますが、学生さんは少ないですね。自分の好きなことだけを深く知りたいという人は多いかもしれないけど、それは“点”でしかなく、その“点”を深く知るためには幅広い分野の教養が必要になる。だからこそ、学生の間に幅広い芸術や文化に触れてほしいし、知的欲求に応える場を提供したいと思っています」。

必要な情報はすぐに手に入る時代だからこそ、ゆっくり本を読む時間が必要だと話す齋藤さん。立ち止まる暇のない忙しい日常から抜け出し、アートで心を豊かにする。「ESPACE BIBLIO」はそんな時間を楽しむのにぴったりの空間です。同店では、トークショーや音楽会などのイベントをオンラインで配信。遠方の方も一度HPを覗いてみてください。



出版事業を立ち上げ、齋藤さん自らが撮影とデザインを手がけた数々の書籍を発行。写真は、2010年に発行した大型の料理本「ギー・マルタン」の芸術(仏・グルマンアワード最高賞受賞)。



齋藤さんは、長崎で被爆した谷口稜嘩(すみてる)さんの経験をイギリス人作家が綴った「The Postman of Nagasaki」を復刻。全国の高校生に無料で配る「ナガサキの郵便配達プロジェクト」を続けている。



輸送マイルージとCO2排出を抑え、地球温暖化に配慮したライスインクを使用しています。



針金・糊・熱が不要な製本方法を採用し、リサイクルや怪我の危険へ配慮しています。



KPPグループホールディングス株式会社  
KPP GROUP HOLDINGS CO., LTD.

発行: コーポレート・コミュニケーション室  
〒104-0044 東京都中央区明石町6番24号  
TEL (03) 3542-4166 (代)  
<https://www.kpp-gr.com/>